

釧路湿原川レンジャー News

2009 Vol.2

第1回「釧路湿原川レンジャー学習会」 が開催されました

平成21年6月24日(水)
場所：釧路町岩保木

平成21年6月24日(水)に、27名が参加して今年度最初の「第1回釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました。

「花咲かじいさんプロジェクト」に参加

毎年、釧路開発建設部が釧路町立遠矢小学校と協働で行っている※1「花咲かじいさんプロジェクト」に参加し、過去に植樹した樹木の生育状況の観察や、湿原植物の観察、釧路開発建設部の担当者から釧路川について話を聞いた後、※2「生態学的混播法」による植樹作業とポット苗づくりを行いました。

植樹作業

作業は、釧路湿原の自然林から採取して種から育てたケヤマハンノキ・オニグルミ・ヤチダモ・ハルニレなど32種類、約250本の苗木を1サークル毎に10本の植樹を行いました。



※1「花咲かじいさんプロジェクト」ってなに？

このプロジェクトは、平成5年から始まった堤防のまわりを湿原の植物でおおい、自然の環境を守るための計画です。

地域の小学生に堤防周辺の植生にふれてもらい、湿原について学習するなかで、治水事業の重要性や自然環境に調和を図ることを目的に、釧路開発建設部が釧路町立遠矢小学校と実施している植樹事業です。



※2「^{せいたいがくてきごんぼろ}生態学的混播法」ってなに？

森は厳しい自然によって失われることがあっても、そのたびに再生を繰り返す大きな力を持っています。

この自然のリズムを生かし、いろいろな種類のタネや小苗を植えることにより、そこの気候や土などの条件にあった生命力のあるものだけが自然の中で生き残り、森がよみがえります。

この方法を「生態学的混播法」といいます。



樹木の生育観察



湿原植物の観察



植樹作業



川の学習



参加した川レンジャー

ポット苗づくりをしました

昨年、茅沼で採取したハルニレの種から育てた苗を含め、オニグルミ、ハシドイ、イヌエンジュなど4種類、約400個のポット苗が出来上がりました。

昨年までは、遠矢小学校の生徒が種を採って育てた苗床からつくっていましたが、今年は川レンジャーのメンバーが自宅で育てた苗床からもつくり出すことが出来ました。



ポット苗づくり



出来上がったポット苗

ミンク(外来生物)について学習

釧路湿原川レンジャーでは初めて「特定外来種のミンク」についての学習を行いました。

当日は、釧路市環境部環境政策課の菊地主幹と釧路国際ウエットランドセンターの佐藤研究員に解説して頂きました。



野生化したミンク

◎ミンクの特徴

- ・イタチの仲間で細長い胴体に短い足、細長い尻尾で、茶色や黒色が多く、くねくねした動きをします。
- ・大きさは、オスが約45cm、尾の長さ約35cm、体重約1kg、メスはオスよりひと回り小さいです。

◎釧路湿原のミンクの由来

この地域のミンクは、戦前、アメリカから輸入され道内で毛皮用のミンク養殖が盛んになり、1950年代後半には逃げたり捨てられたりして野生化したものと確認されています。

◎ウエットランドセンターからお願い

センターでは、野生化したミンクの生息状況を調査しており、広く一般からミンク情報を募集していますので、先日郵送しました「釧路地域のラムサール湿地におけるミンク生息状況調査アンケート」にご記入いただき、投函していただきたいと思っております。



釧路湿原川レンジャーからは「ミンクの大きさは?」、「人に向かってきますか?」、「知り合いがミンクを飼っていた、と聞いたことがある。」などの質問が出されました。

川レンジャーからは、8月16日時点で15件の報告がありました。



ミンクについて説明する菊地主幹と佐藤研究員



説明を聞く川レンジャー

